

2026年春 IAQG Asia-Pacific シドニー会議について

1 はじめに

従来、アジア太平洋地域は APAQG という名称の下で活動を行ってきたが、IAQG (International Aerospace Quality Group: 国際航空宇宙品質グループ) によるブランド戦略の見直しに伴い、今後は IAQG Asia-Pacific (以下、IAQG-AP) という名称で活動を行うこととなった。同様に、アメリカ地域は IAQG Americas、欧州地域は IAQG Europe と改称される。

JAQG (Japanese Aerospace Quality Group: 日本航空宇宙品質センター) は従来通り、アジア太平洋地域の中心メンバーとして、IAQG の活動戦略目標に対応した IAQG-AP 内の活動方針決定や、IAQG への意見提言においてリーダーシップを発揮している。



IAQG 構成図

2026年3月10日～12日にかけてオーストラリアの主要都市であるシドニーにて、定期 IAQG-AP 春会議を開催した。また今回も会議に先立つ3月9日に、現地オーストラリアの航空宇宙関連企業等を対象に、IAQG の活動内容紹介や規格の最新情報、ICOT (International Certification Oversight Team) スキームの説明、IAQG メンバーシップの要件などについて説明を行い、IAQG 活動への参画を呼びかけた。前回のマレーシアに続き、複数社からメンバー参加希望を受けており、プロモーションの成果を上げることができた。

以下に会議の概要を示す。

2 会議の概要

2.1 IAQG-AP シドニー会議

(1) 参加国及び参加組織

IAQG-AP シドニー会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係 36 組織が参加した。詳細を下表に示す。

国名	メンバー資格	会社名	出欠	備考
日本	Full Member	三菱重工株式会社	出	
日本	Full Member	川崎重工株式会社	出	
日本	Full Member	株式会社IHI	出	
日本	Full Member	株式会社 SUBARU	出	
日本	Associate Member	日本電気株式会社	出	
日本	Associate Member	三菱電機株式会社	出	
日本	Associate Member	株式会社IHIエアロスペース	出	
日本	Secretariat	日本航空宇宙工業会 (SJAC)	出	
中国	Associate Member	AECC (Aero Engine Corporation of China)	出	
中国	Full Member	AVIC(Aviation Industry Corporation of China)	出	
中国	Full Member	COMAC(Commercial Aircraft Corporation of China)	出	
中国	Affiliate Member	Honeywell China	出	
中国	Affiliate Member	Boeing Tenjin	オンライン	
韓国	Full Member	KAI(Korea Aerospace Industries)	出	
韓国	Associate Member	KAL(Korean Air Aerospace Business Division)	出	
韓国	Associate Member	LIG Nex1	出	
韓国	Affiliate Member	Hanwha Systems	出	
韓国	Affiliate Member	KAIA (Korea Aerospace Industries Association)	出	
韓国	Associate Member	Hanwha Aerospace	出	
シンガポール	Affiliate Member	UTC(United Technologies Corporation)	出	
シンガポール	Affiliate Member	AAIS(Association of Aerospace Industries (Singapore))	オンライン	
シンガポール	Associate Member	Liebherr-Singapore Pte Ltd	オンライン	
インド	Affiliate Member	Mahindra Aerostructures Pvt Ltd.	オンライン	
インド	Associate Member	TATA Advanced Systems Limited	出	
インド	Affiliate Member	KUN Aerospace	オンライン	
インド	Associate Member	HAL(Hindustan Aeronautics Limited)	オンライン	
インド	Affiliate Member	Airbus India	オンライン	
インド	Affiliate Member	Expleo Technologies India Pvt Ltd	オンライン	
インド	Affiliate Member	SLN Technologies Pvt. Ltd	オンライン	
インド	ゲスト	Bellatrix Aerospace Pvt. Ltd	オンライン	今回の会議でメンバーになった
インドネシア	Affiliate Member	GMF AeroAsia	オンライン	
インドネシア	Associate Member	IAe (Indonesian Aerospace)	オンライン	
マレーシア	ゲスト	MAIA (Malaysia Aerospace Industry Association)	オンライン	今回の会議でメンバーになった
オーストラリア	ローカルホスト	TQCSI	出	
オーストラリア	ゲスト	Invictus Critical Solutions Australia Pty Ltd	出	
オーストラリア	ゲスト	L3 Harris	出	

(2) 評議会における承認及び決定事項

以下のとおりである。

- ・ 議事録：第 44 回 APAQG クアラルンプール会議議事録が承認された。
- ・ 会計報告：2025 年決算報告が承認された。
- ・ IAQG 賛助会員：マレーシア MAIA (MALAYSIA AEROSPACE INDUSTRY ASSOCIATION)、インド Bellatrix (Bellatrix Aerospace Pvt. Ltd) が新規 IAQG 賛助会員として承認された。また、SJAC はアジア太平洋地区の事務局として活動してきたが、IAQG によるメンバーシップ見直しが行われている中、他国（フランス GIFAS、韓国 KAIA 等）の業界団体と同様に、IAQG 賛助会員(Affiliate Member)として改めて確認を行った。
- ・ 2026 年秋季および 2027 年秋季会議日程。
- ・ セクター・リーダー及びセクター・サブリーダーの任期(2 年)満了に伴い、新リーダーの改選が行われ、セクター・リーダーに陶山修二氏（株式会社 I H I）、サブリーダーに高橋伸英氏（株式会社 S U B A R U）が選出された。

(3) 評議会 (Council Meeting) 概要

評議会では、セクター・リーダーの上原氏の開会宣言ののち、セクター・サブリーダーの陶山氏の進行により実施された。アジェンダは定例通り、投票メンバーの確認、前回議事録の確認、セクター内の各グループ活動状況の報告などが行われた。項目ごとの詳細は以下に示す。

(4) 評議会以外の活動

評議会に先立ち、SF(Space Forum)会議、COT(Certification Oversight Team)会議、Early Career Project 会議が開催され、それらの概要も評議会で共有された。また、日本、中国、韓国、インド各国内の活動状況についても報告された。



評議会の様子



評議会後の参加者集合写真

2. 2 評議会の概要

(1) 開会

IAQG アジア太平洋セクター会議は、セクター・リーダー 上原 美基 氏（川崎重工業株式会社）の開会宣言をもって開始された。

以降、IAQG-AP セクター・サブリーダー 陶山氏（株式会社 I H I）により会議が進行された。



上原セクター・リーダー(川崎重工業株式会社)



陶山セクター・サブリーダー(株式会社IHI)

(2) IAQG EC/OPC (Executive Committee/Operation Council) 活動報告

(上原 美基 IAQG-AP セクター・リーダー (川崎重工業株式会社))

毎週開催で IAQG の重要事項を協議する EC の主要トピックとして、9100 部分改訂に対する否認票処置状況や、認証データベース OASIS Insight 向け AI を開発中であること、アジア太平洋地域次期リーダーを含む主要リーダー職募集など最新情報を報告した。

また、毎月開催で Voting Member へ IAQG 活動状況を共有する OPC の主要トピックとして、1 月の年間活動計画会議における各 Working Group の計画概要と、2026 年の会議日程を報告した。

(3) 9100 規格チーム活動報告

(西口 潤 9100 IAQG-AP SDR (Sector Document Representative) (三菱重工業株式会社))

現行の 9100 規格が長期にわたって改正されていないこと、及び米国のステークホルダーからの要請により、現行の 9100 規格を部分改正し、発行することが IAQG バルセロナ会議で決定され、規格案を作成した。ただ、最終投票でヨーロッパからの不承認票があった為、IAQG として当該者に丁寧に説明をしてきたが、最終的に合意に至らなかったこと、及び ISO9001:2026 発行が近づいており、移行期間が十分にとれないことから、部分改正をキャンセルすることが IAQG で決定された。

並行して開発してきた 9100 本改正では、新しい要求事項として、情報セキュリティ、強化する要求事項として、製品安全、模倣品防止、APQP (Advanced Product Quality Planning) 等を反映している。26 年 2 月-3 月で本改正案に対する 1 回目の投票が行われ、59 名承認、1 名不承認、全部で 181 件のコメントを受領した。今後、アジアパシフィックセクターで各コメントに対する処置案をメンバーと協議し、決定していくことが報告された。26 年 4 月に開催される IAQG リスボン会議では、各セクター(米/欧/亜)の協議結果を持ち寄り、IAQG としての最終処置方針協議が行われる予定。

尚、9100 本改正は 2027 年 1 月発行予定 (ISO9001:2026 は 2026 年 7-9 月発行予定)で進めている。



西口氏（三菱重工業株式会社）

（４）9110 規格（MR0）チーム活動報告

（David Tan（IAQG MR0 チーム IAQG-AP リーダー（P&W 社）））

IA9100 の改正スケジュールおよびそれに続いて発行される IA9110 の改正スケジュールについて報告された。前項で述べた通り、9100 規格のマイナー改正については、正式に中止が決定され、2026 年秋の ISO9001 改正を受け、2027 年 1 月に IA9100 本改正が発行される予定である。IA9110 はこれを受けて 2027 年 7 月に改訂版を発行する計画である。



David Tan 氏（P&W 社）

（５）9150 規格チーム活動報告

（Jeffrey Ho 氏 IAQG 9150 チーム（Association of Aerospace Industries（Singapore）））

（Jeffrey 氏はオンライン参加）

9150 は比較的小規模な組織向けの認証規格として開発が進められている。今回の会議では 9150 チームの作業進捗状況について報告され、Gate2（構成レビュー）の承認が得られ、IAQG の投票メンバーによる最終承認を本年中に取得する見通しであることが報告された。

（６）IAQG-AP COT（APCOT：Asia-Pacific Certification Oversight Team）活動報告

（小葉 正幸 IAQG COT Asia-Pacific セクター・リーダー（株式会社 I H I））

COT の IAQG レベルおよびセクターレベルでのチーム構成・メンバー・役割、関係国における IAQG 認証制度関連の負荷分担、今年のオーバーサイト（監視・監査）計画、認証関係 9104 シリーズ/9101 規格の改訂版への移行、およびインド RMS（国レベルの COT）の欧州セクターからアジア太平洋セクターへの移管等について状況報告された。

今年のオーバーサイト活動はセクターレベルと国レベルで予定通りに進んでいる。IAQG 補足規則 005 の草案に記載されている移行再開に必要な条件が改めて確認され、各規格の IAQG における投票およびそれらの翻訳の状況が共有された。移行再開日は、主要活動の進捗状況が依然不透明なため、まだ正確には予測できない。最後に、IAQG OASIS のデータに基づき、アジア太平洋地域における規格別および国別の AQMS 認証取得件数が会議参加者に共有された。



小栗氏（株式会社 I H I）



APAQG COT チーム

IHI 小栗氏（前列左から 2 番目）、SUBARU 鈴木氏（後列右から 2 番目）、SJAC 城福（後列右）

（7）規格要求分科会活動報告

（上原 美基 IAQG 規格要求チーム アジア太平洋セクターフォーカル(川崎重工業株式会社)）

IAQG 規格開発を管理する SMC（Standards Management Committee；規格管理委員会）の現体制及び各 IAQG 規格の改訂作業状況・予定を報告した。重要な改訂作業として、一部を除くほぼ全ての規格冒頭に

「適用の場合は QMS 認証審査の事前調査時に審査員へ報告する」(9104-1A 規格上の組織認証分析プロセス OCAP に基づく要求)注記を加える改訂が実施中であり、これにより全ての IAQG 規格の IA 化が促進されることを報告した。



上原氏（川崎重工業株式会社）

(8) IAQG Operational Performance -Procedure 活動報告

（池崎 隆司 APAQG Operational Performance チームリーダー（株式会社 I H I））

オペレーショナル・パフォーマンスチームは内部に3つの担当部門（文書管理担当、パフォーマンス評価担当、ステークホルダー評価管理担当）があり、これら担当によりプロシージャの見直しとステークホルダーからの評価収集要領の再構築を行っていることを報告した。これは、デジタル化や法的要件の変化を背景に、プロシージャを含む内部ガバナンス文書を見直すことが IAQG 内部で決定されていたが、その後のコロナ禍の混乱等で遅れていた活動を本チームで推進しているものである。具体的には、欠落しているガバナンス文書の整備、3つのセクター（アメリカ、欧州、アジアパシフィック）間でのプロシージャの整合化、各プロシージャにおける評価指標の設定に注力し、またこれら活動結果に対するステークホルダーからの評価を収集する仕組みを構築していることを報告した。



池崎氏（株式会社 I H I）

(9) Operational Performance - Document 報告（文書管理担当）

（城福 隆司 SJAC/APAQG 事務局 Operational Performance チーム 文書管理担当）

IAQG の Procedure および IAQG-AP の Charter および Procedure に関する最新情報について報告した。今回は IAQG による Dictionary への掲載内容の変更方針や IAQG-AP の Charter の一部改訂について特に説明を行った。



城福 (SJAC)

(10) PSCI 製品及びサプライチェーン改善分科会活動報告

(Zuozheng Lou 氏 IAQG PSCI チーム IAQG-AP リーダー (COMAC 社))

SCMH (Supply Chain Management Handbook) の開発状況について報告された。

- ・ 前回の総会以降、3つの新規 SCMH トピックが発行された。(7.21、2.4、7.20)
- ・ 5つのトピック (3.11、7.3、7.9、7.X、PSCI Project) が開発中であり、そのうち7.9はまもなくリリースされる。
- ・ 9110、9131、9138、9145 およびスペースフォーラムを支援するために、4つのトピック (3.3、3.7、7.2、7.17) も開発されている。
- ・ SCMH イベントが中国および日本で昨年9月に開催されたことが紹介された。



Zuozheng Lou 氏 (COMAC 社)

(11) 国際スペースフォーラム分科会

(松根 功忠 IAQG-AP スペースフォーラム リーダー (三菱重工業株式会社))

スペースフォーラムは、9100 シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓発を主たる目的として活動を行っている。

IAQG-AP においてスペースフォーラムを有する組織は現状 JAQG のみであり、JAQG スペースフォーラムが本会議を主導した。会議では、IAQG-AP/JAQG スペースフォーラムの活動報告等を行い、活発な意見交換が行われた。

特に、更なる関係強化のためのプロモーション活動として、昨年11月にフィリピンで開催された APRSAF-31 (31st Asia-Pacific Regional Space Agency Forum) でのプロモーション活動結果も共有した。今後も IAQG-AP の代表として、セクター内の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当

該活動を IAQG へ反映出来るよう積極的に参画していく。



松根氏(三菱重工業株式会社)



前日に行われた APAQG スペースフォーラム会議の様子

(12) Communication 報告

(服部 明子 SJAC/APAQG 事務局)

次の内容について報告がなされた。2025 年の実績と 2026 年の計画を説明した。LinkedIn のフォロワー数や Podcast のダウンロード数は順調に伸びている。2025 年にスマートフォン向けの IAQG アプリがリリースされた。2026 年には従来の IAQG ニュースレターに加えて SCMH 登録者向けの SCMH に特化したニュースレターを発行予定である。「I AM IAQG」というタイトルの Tik Tok 調のビデオ制作が予定されていることが報告され、テストビデオへの参加が呼びかけられた。



服部氏 (SJAC/APAQG 事務局)

(13) 各国/地域のステータス報告

評議会で報告された国/地域のステータスは以下の通りである。

ア 韓国

韓国代表の Lee 氏 (Hanwha Systems 社) より、KAQG (Korea Aerospace Quality Group) の活動状況が報告された。韓国は日本と同様、母国語の 9100 規格 (KS Q 9100) を制定しており、韓国国内では順次 AS/EN9100 から KS Q 9100 への移行が進んでいる。2026 年現在、9100 認証取得組織数は 948 社でそのうち 484 社が移行済みであることが報告された。

また、韓国では 9100 認証取得に対して一件当たり約 100 万ウォン (約 USD700) の補助プログラムがあることが紹介された。



Byunglim Lee 氏 (Hanwha Systems 社)

イ 中国

中国代表の Qu Haibo 氏の代理として Wanqing Wang 氏 (AVIC 社) より、CAQG の活動状況が報告された。現在 IAQG-China (CAQG は先行して IAQG-China に名称を変更している) はメンバー数が 76 になったと紹介された。また、中国国内の活動について紹介があった。中国は独自に全国大会を開催するなど活発な活動を行っている。(10) 項で示したように、Lou 氏が SCMH のアジア太平洋地域のリーダーをしている関係上、中国国内でも SCMH の活動を活発に行っている。また、Nadcap の AC (Audit Criteria) の中国語訳の作業も進めているとの報告があった。



Wanqing Wang 氏 (AVIC 社)

ウ 日本

オンライン参加の JAQG 幹事長（高橋 JAQG 幹事長(株式会社 S U B A R U)）より、JAQG の活動として以下が報告された。

- 前回の APAQG クアラルンプール会議以後の、戦略検討委員会や幹事会等の開催状況
- 日本国内の 9100 シリーズの認証数の変化（JAQG の組織については変更なし）
- 活動全般として、JAQG は、IAQG や APAQG 活動に積極的に取り組んでおり、IAQG から得られた情報については日本国内ステークホルダー等に展開している。また、各 WG の活動や、IAQG の SDL（Standards Document Liaison）等への参加状況、IAQG のブランド戦略変更への対応状況について共有した。

各 WG 活動について報告したポイントを列挙する。

- ① 戦略検討委員会及び幹事会は月次で開催し、IAQG 活動への取り組み等の検討を進めている。特に S-SDO に係る翻訳に関し、IAQG との契約締結を進めている。
- ② 規格 WG では、各規格や AIMM の和訳に関する取り組みを進めている。
- ③ SCMH WG では、SCMH の和訳を継続的に実施している。ウェビナーによるセミナーを実施した。
- ④ スペースフォーラムでは、APRSAF-31 が完了した。また継続的に比較的小規模ステークホルダーも含めて関係構築を継続している。
- ⑤ コミュニケーショングループでは、JAQG25 周年に向けての準備を進捗中である。
- ⑥ 特殊工程 WG では、Audit Criteria の和訳に関する取り組みを進めている。
- ⑦ エンジン品質 WG では、AS13100 のポケットガイドの和訳等の状況、及び、国際会議への参加と関係者への情報フィードバックを実施している。

エ インド

Vijay Prajapati 氏（TASL 社）より InAQG（Indian Aerospace Quality Group）の活動について報告がなされた。

その中で、ICOT スキームの確立、会員数が 130 社を超えたこと、そして AS9100 シリーズの認証数が 1,500 件を超えたことが報告された。特にインド RMC（Registration Management Committee）は 2026 年の IAQG-AP COT への移管に向けて最終段階に入っていることが報告された。

これまで IAQG-AP では RMC が存在するのは日本と韓国のみであったが、今年中にはインドもその仲間入りをするようになる見込みである。

なお、TASL 社は現在 IAQG の Associate Member であるが、投票権のある Full Member への昇格を目指して猛アピールをしている。



(14) Early Career プロジェクト

(陶山 修二 Asia Pacific Early Career Lead) (株式会社 I H I)

Early Career プロジェクトは若い品質技術者への IAQG 活動の周知・浸透を図るとともに IAQG 活動への参加者を増やすことを目的として実施している。

2025 年クラスは 5 名の参加者 (Trainee) を得て 2025 年 3 月のジャカルタ会議から開始され、指導員 (Mentor) の支援のもと参加者は 1 年間にわたって実際の IAQG 活動に参加・体験してきたこと、今回のシドニー会議では参加者による最終報告が行われたことが報告された。また参加者の中で Early Career Project を通じて IAQG 活動への理解やその重要性に対する認識が進んだことが報告された。

一方、2026 年クラスについては、シドニー会議から活動を開始したところで、まだ 2 名の参加者にとどまっていることもあり、引き続き参加者を募集していることが通知された。



Early Career Project 参加メンバー

(15) 新メンバーの紹介

前回マレーシアのクアラルンプール会議に出席していた MAIA (Malaysia Aerospace Industry Association : マレーシア航空宇宙工業会) およびインドの Bellatrix Aerospace 社が会期中に新たに IAQG Affiliate Member として迎え入れられた。合わせて SJAC として各国航空宇宙工業会と同様に Affiliate Member であることを確認した。

3. IAQG-AP Promotion

今回、IAQG-AP 定例会議開催前日に IAQG-AP 宣伝および勧誘活動を実施した。オーストラリアには 9100 認証取得組織が 100 社以上あるにも関わらず IAQG メンバーが 1 社もないため、この機会にオーストラリア国内の航空機産業向けに宣伝及び勧誘を実施し、IAQG 活動への参加を促すことを目的として開催した。

オーストラリア現地の認証機関である TQCSI の協力を得て、18 社からの参加者に対し IAQG-AP より IAQG 活動内容の説明、9100/9110 の状況、ICOT スキームの説明、IAQG メンバー要件等について説明を行った。

現地企業からは Masters & Young Pty Ltd および Raytheon Australia Pty Ltd より活動内容の紹介があった。後日連絡を頂いたところによると、複数の会社から IAQG メンバー登録希望があるとのことである。



IAQG-AP Promotion Event の様子



IAQG-AP Promotion Event 参加者

なお、少し時間があつたので、SJAC が 2028 年秋に開催する予定の JA2028 について概要説明と参加申し込み募集をおこなった。



JA2028 の説明（説明のために JA2024 の状況を示している）説明者：城福（SJAC）

4. おわりに

羽田空港からシドニーのキングスフォード・スミス国際空港までは9時間30分の深夜直行便で、現地には朝7時頃に到着した。開催場所となった RYDGES SYDNEY CENTRAL ホテルはシドニー中心部に位置し、空港からはタクシーで30分程度の距離である。早朝到着となったことで、チェックインまでの時間を事前の会議室確認などに有効に活用することができた。なお、復路はホテル近傍の駅から鉄道で空港に向かったが所要時間は15分程度と短く、利便性の高いアクセス環境であった。



RYDGES SYDNEY CENTRAL HOTEL (Hotel Web ページより)

オーストラリアは日本の20倍の面積を有する大きな島国であるとの印象が強いが、シドニーに関して言えば、オペラハウス、ハーバーブリッジ、シドニータワー、中華街といった著名なスポットがいずれも4km圏内に点在しており、コンパクトな印象を受けた。路面電車（トラム）が市内各所を頻繁に結んでおり、観光客にとっても移動が容易で、治安面での不安もなかった。町並みは欧米的でありながら、どこことなくアジアの雰囲気も感じられ、ここがアジア太平洋地域であることを自然に実感させる街であった。



シドニー市内の様子

南半球に位置するシドニーは夏から秋への移ろう季節にあたり、終日 20～25℃程度と快適な気候であった。一方、観光シーズンのピークと重なったため、会場の確保には相当の苦労を要した。当初はメルボルンを開催予定地としていたが、F1 レースと日程が競合し、適当な会場を確保できなかったため、急遽代替地を模索しシドニーに落ち着いた経緯がある。シドニーにおいても観光シーズンのため会場探しは難航したが、現地ホストの尽力により何とか確保できた次第である。

現地でホストを務めて頂いた TQCSI はアデレードに本部を置く認証機関である。会議期間中は 5 名ほどシドニーに出張して頂き、受付やディナーの運営等、終始献身的にサポートして頂いた。



現地ホストの TQCSI の方達と（左から：佐藤常務理事(SJAC)、城福(SJAC)、Christine 氏(TQCSI)、服部氏(SJAC)、David 氏 (P&W)、Sean 氏(TQCSI)）

広大な大地で育まれた、いわゆるオージーの国民性はおおらかで包容力があり、初対面の我々にも屈託なく接して頂いた。国や地域によって国民性がいかに異なるかを改めて実感したが、そのような出会いこそ国際会議の醍醐味の一つである。

IAQGが掲げる理念の一つは「ハーモナイズ（調和）」である。今回の会議においても、オージーをはじめ、日本、韓国、中国、インド、シンガポールなど、それぞれ異なる言語と国民性を持つ参加者が一堂に会した。多様性を受け入れ、共通の規格のもとに航空宇宙産業の高品質なマネジメントを実現しようとする営みこそ、IAQGの活動の本質である。

日本としては、引き続きアジア太平洋地域の活動を牽引するとともに、この理念のもと、IAQG活動への一層の貢献を果たしてゆく所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕